



2009年11月10日

日本応用心理学会ニュースレター

—コミュニケーションの広場—

No. 22

1. 日本応用心理学会第76回大会を終えて

大会委員長 川本利恵子

日本応用心理学会第76回大会は、平成21年9月12日(土)と13日(日)の2日間、九州大学(病院地区キャンパス)のコラボ・ステーションI・IIを会場として開催いたしました。大会は女性が多い九州大学の看護系関係者を中心に、ケアの心をモットーに大会を準備運営させていただきました。あいにく1日目は博多ではひさしぶりの雨に見舞われましたが、2日目は晴天となり、盛況のうちに大会を終わることができました。ホッとするとともに、これも一重に大会参加者の皆様や理事長をはじめ理事会の皆様のご支援とご協力、またこのようなご時世の中、貴重なご支援をいただいた出版社や企業の皆様方によるものだと心より感謝申し上げます。

大会の参加者はインフルエンザなどの影響で実際には180名の参加でしたが事前予約者が213名、当日申し込みの参加者は63名の総計276名でした。遠方にもかかわらず59名の院生の参加があり、研究発表で活発な議論が行われている状況からも若手研究者支援事業による成果が確実に実を結んでいると感じました。大会企画の特別講演は2件、

シンポジウム1件、学会企画の研修会2件、研修セミナー1件に加え自主企画のワークショップ4件、口頭研究発表27題、ポスター研究発表82題があり、すべて予定通り行われました。本大会から開始されました『「応用心理学研究」への論文投稿のために研修セミナー』と論文指導は皆様の関心を引く企画であり、参加者された方は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。近々、学会の機関誌に掲載されると聞いておりますので、今回大会に参加できなかった会員の皆様も内容に触れていただけると思います。

ところで、本大会のメインテーマは「医療における応用心理学の可能性」とさせていただきました。日本応用心理学会の長い歴史の中でも初めてのことですが、病院がある会場での開催を記念して、健康・医療・看護などの領域における応用心理学の可能性を追求したいと考えたからです。そこで、大会企画の内容はすべて医療にかかる内容といたしました。特別講演は、池口恵觀先生による「医療におけるスピリチュアルケア」、足達淑子先生による「医

目

1. 日本応用心理学会第76回大会を終えて
……………川本利恵子・大会委員長 1
2. 研究発表した大学院生の声
山崎 創・遠藤嵩仁(明治学院大学大学院) … 3
小澤弘希(帝塚山大学大学院) … 3
3. 研修会報告と2009年度公開シンポジウムのお知らせ
……………田之内厚三・企画委員長 4
4. 国際交流委員会からのお知らせ
……………内藤哲雄・国際交流委員長 4
5. 日本応用心理学会第77回大会からのご挨拶(第1報) …田中真介・次期大会委員長 5

次

6. 機関誌編集委員会からのお知らせ
……………所 正文・機関誌編集委員長 6
7. 「応用心理士」認定審査委員会活動報告
……………玉井 寛・「応用心理士」認定審査委員会委員長 7
8. 日本心理学諸学会連合報告
……………谷口泰富・常任理事 7
9. 事務局だより ………………浮谷秀一・事務局長 8
10. 編集後記 ………………藤森立男・広報委員長 9

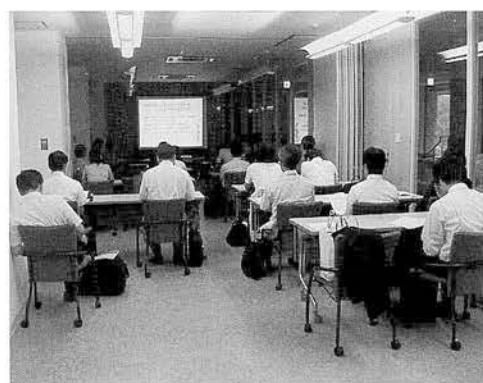
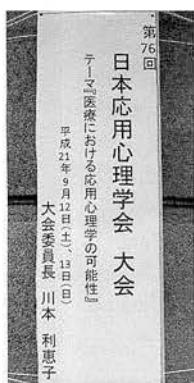
療における行動療法—アドヒアレンス（患者行動）改善のために」ですが、医療やケアの問題をとらえていくときに重要な考え方である人間が生きることの本質や行動の原点についてお話ししていただきました。多くの示唆深い言葉に深く考えさせられたご講演でした。シンポジウムでは、京都大学の田中真介先生からこれまでたびたび発生した薬害被害の問題、九州大学の新田春美先生は子どもの遅寝傾向から派生する発達への影響の問題から、地域と生活力を基盤とした支援の必要性について話題提供していただきました。明治学院大学の井上孝代先生にはこのように人の精神的健康度が低下している今日、心的支援力を持っている心理専門家の役割を見つめなおし、心理専門家人材育成の視点から医療分野における応用心理学発展の可能性について論じていただきました。大会企画ワークショップは、九州大学の中尾久子先生の企画で名古屋大学安藤詳子先生と山梨県立大学松下由美子先生から、最新の話題をもとに「医療現場とリスクマネジメント」について、また、熊本大学の森田敏子先生の企画で信州大学の松永保子先生と熊本保健科学大学多久島寛孝先生から「実践教育（臨床実習）における学生への心理的サポート」について実践に基づいた話題から論じていただきました。学会企画の研修会として、日本大学の大村政男先生には「応用心理学研究における統計処理の諸問題」を心理学の不安を題材にご解説いただき、麻布大学の田之内厚三先生には「職業的災害救助者の惨事ストレス対策」というテーマで、救援活動に携わる人たちのストレスについてご紹介いただきました。

懇親会は九州の繁華街として有名な中洲川端のIPホテルで開催いたしました。100名を超す方に参加していただきましたが、新鮮な魚介類や博多の名

物である長浜ラーメンやもつ鍋などを堪能され、おなかは十分に満足していただいたようです。名誉会員の先生、次期大会長の京都大学の田中真介先生のご挨拶をいただき、和やかな雰囲気の中で終了いたしましたが、そのあとは各人各様に繁華街中洲で博多の夜を満喫されたようです。

大会内容とは関係がありませんが、プログラム集と論文集の表紙には大会のシンボルとしての意図があるので紹介させていただきます。20年ぶりの九州の地で行う2009年のメモリアルな大会をコンセプトにしたいと思いましたので、皆様の心に長く残る大会であることを祈り、九州でしか観察できない「皆既日食」をテーマにしました。奄美大島から「皆既日食」の写真の使用許可をいただき、黒と黄色で大胆にデザインしました。目を引くこの黄色は月をイメージしておりますが、このような意味を密かに含ませておりました。

最後になりますが、無事に大会を終えることができたのも多くの方々に支えられてのことだと思っております。学内外の関係者の皆様にこの場を借りて心より重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



2. 研究発表した大学院生の声

山崎 創・遠藤嵩仁（明治学院大学大学院）

今回の応用心理学会第76回大会は、私たちにとって初めての学会発表でした。今まで、大会スタッフや参加者として学会に関わることは何度もあったのですが、発表者としての参加は初めてで、観えてきたものは大きく異なっていました。

本大会に参加して感じたことは、研究者間の距離の近さでした。私たちと同年代の若手研究者からベテランの研究者まで非常に幅広い交流をすることができました。特に懇親会では、博多のおいしい料理に舌鼓を打ち、熱気溢れる会場で経験豊かな先生方の示唆に富む楽しいお話を間近で拝聴することは、とても貴重な機会でした。

発表においては、ポスター発表をさせていただきましたが、『応用心理学』の名を冠するにふさわしく、実に多様な領域を研究テーマにした研究者が集っていました。私たちの発表においても臨床的な内容にもかかわらず、基礎研究の先生方など多様な方たちからアドバイスをいただきました。思えば、応用心理学会での醍醐味を存分に味わったのはこの瞬間だったように思います。研究方法や分析結果、研究で用いた概念の意味合いについてなど、臨床の枠に収まらないさまざまな角度からの問題が提起され、目から鱗のあっという間の1時間でした。私たちにとって、この時間は本当に忘れられない体験となりました。

そしてボランティアスタッフの方々に関しても、改めて感謝させていただきます。非常に柔らかな物腰と気配りを持ったスタッフが会場の隅々にまで目を行き届かせており、発表者は雑務に追われることなく非常に快適な環境で発表に専念することができました。

そして私たちに発表の機会を与えてくださった、応用心理学会および大会運営に携わった皆様方にも厚く御礼申し上げます。この研究発表をきっかけに得られた多角的な視野を持って、研究により励んでいきたいと思います。

小澤弘希（帝塚山大学大学院）

私にとっての初めての応用心理学会は、新鮮の一言に尽きました。今まで、学術的な発表の場に参加したことはほとんどなかったので、右も左もわからないまま参加してしまい、さまざまな人に迷惑をかけてしまったと思います。至らないところも多々あ

り、後悔もたくさんありました。それでも、“楽しい”という感想が言葉として出てくるのは、私にとって良い学会であったということを裏づけていると思います。

私はポスター発表でしたので、自分がよく考えている発表のイメージとは、少し異なっていました。“口頭発表の流れ”は予想できましたが、“ポスター発表の流れ”はまったく予想できず、練習で右往左往した覚えがあります。何度練習しても納得できず、どうすれば相手に伝わりやすい発表になるのか、検討を重ねました。発表当日は、緊張とともに朝を迎えました。他の発表者の方の発表を聞くと、自分がいかに不十分であるか実感させられました。それゆえに、他の発表者の方の発表からは、プレゼンテーションの仕方、内容のまとめ方、質問の考え方など、勉強になることがたくさんありました。特に、質疑応答の流れについては、非常に参考になりました。発表者の方の質疑応答を聞いているとき、質問された内容へまず簡潔な答えを述べ、その後に解説を加えるという流れが非常にわかりやすかったため、自分もそれを心がけようとしていたのですが、いざ自分の番になると上手にできないことが多々あり、まだまだ練習が足りないことを痛感しました。

また、自分の研究とは異なるジャンルの研究を知ることができるというのも新鮮でした。普段では触れることが難しいほかの専門分野の知識を、気軽に聞き、質問できるというのは、学会ならではの利点だと思います。同時に、こういった場は、自分の研究を異なった視点から見てもらうことにもなります。また、分野の専門家からの意見もいただけます。特に、これから研究のビジョンについて質問され、自分がそれに明確な答えを出せなかつたときは、自分の研究に対する意識の曖昧さを強く自覚しました。そして、どういう方向で研究を進めていくのかを、具体的に考えるようになりました。

応用心理学会に参加したことは、非常に有意義で、自分にとって素晴らしい一步であったということができます。ここでいただいた叱咤激励を糧にして、自分の研究をより良いものにしていきたいと思っています。最後に、学会開催にあたりご尽力なされた先生方、および大会スタッフの皆様方に、厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

3. 研修会報告と2009年度公開シンポジウムのお知らせ

企画委員長：田之内 厚三（麻布大学）

平成21年度から3年間、企画委員会の新委員が次のように決まりましたので、お知らせいたします。委員長：田之内厚三（麻布大学）、委員：大坊郁夫（大阪大学）、齊藤勇（立正大学）、田中佑子（諏訪東京理科大学）、松田浩平（文京学院大学）、木村友昭（MOA健康科学センター）。

企画委員会の主たる業務は、大会時の研修会実施と大会以外での公開シンポジウムの開催の2つです。まず、本年9月12・13日に開催された第76回大会（九州大学）での研修会について報告いたします。【研修会A】は、講師：大村政男（日本大学名誉教授）/司会：藤田主一（日本体育大学教授）で、「応用心理学研究における統計処理の諸問題」がテーマでした。【研修会B】は、講師：田之内厚三（麻布大学教授）/司会：藤森立男（横浜国立大学教授）で、「職業的災害救助者の惨事ストレス対策」の問題が議論されました。当初は、研修会Aが36名、研修会Bが30名と、多数の予約申し込みがありましたが、残念ながら、当日は、多くの会員がほかの発表と重なってしまい、欠席が目立つ結果となってしまいました。しかし、両会場ともに熱い質疑応答が見られ、少ないながらも有意義な研修会となりました。講師と司会の先生方、参加された会員諸氏にお礼申し上げます。研修会への参加は、研修会受講証明書の発行をもって「応用心理士」の資格認定のポイントになりますので、今後もぜひ奮ってご参加ください。

もう1つの委員会の主要業務は、公開シンポジウムの開催です。今年度は、谷口泰富先生のご尽力で駒澤大学が会場となります。テーマは、いま注目されている裁判員制度について、応用心理学の立場からアプローチしてみようということで、「目撃証言・供述は信用できるか？」という問題を取り上げ

てみました。市民の常識や感覚を刑事事件に反映することを目的とした裁判員裁判で、目撃証言や供述調書による冤罪を防ぐには、どのような工夫が必要なのか。検察官や弁護人の話し方、被告の表情やしぐさ、また被害者・遺族の発言が裁判員の判断にどう影響するのか。本当に、客観的事実にだけ基づいて判断できるのか。裁判員制度のもつ問題点について、応用心理学の立場から提言、議論します。地元や周辺地方に限らず、多数の参加を期待しています。

- (1) 日本応用心理学会シンポジウム：目撃証言・供述は信用できるか？ —裁判員制度と応用心理学—
- (2) 日時：2009年12月5日（土）午後1時30分～午後4時
- (3) 会場：駒澤大学 1号館204教場（東急田園都市線「駒澤大学駅」下車、徒歩8分）
- (4) 司会：細江達郎（岩手県立大学教授）
- (5) 話題提供者：巖島行雄（日本大学教授）“目撃証言心理学の立場から目撃証言の誤りの原因を考える”/伊東裕司（慶應義塾大学教授）“裁判員の判断における感情と直感”/藤田政博（政策研究大学院大学准教授）“司法制度運用者における心理学の位置づけと、裁判員制度・被害者参加制度が心理学研究にもたらす新たな研究の可能性”
- (6) 指定討論者：伊藤芳朗（弁護士・クレスト法律事務所所長）“法律実務家からのコメント－裁判員制度の現状を踏まえて”/齊藤勇（立正大学教授）“対人心理学からのコメント”
- どなたでも参加できます（無料、事前申込み不要）

4. 国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員長：内藤 哲雄（信州大学）

第27回国際応用心理学会大会に関するお知らせ

第27回国際応用心理学会大会に関するお知らせは3件です。下記のように、本学会会員が国際応用

心理学会大会で発表（口頭・ポスター等）した場合には、本学会の英文特集号に短報（できあがり2ページ）、資料、原著での投稿ができます。国際応用心理

学会第27回大会への発表申込期限は本年の12月1日です。同大会での本学会会員の単独、連名での発表予定者は少なくありません。ふるってご参加ください。発表申込時の原稿はWEB入力でAbstractです。

A. 第27回国際応用心理学会大会 (27th International Congress of Applied Psychology)

国際応用心理学会第27回大会での発表については、下記の大会サイトをご覧ください。申込手続き終了後にAbstractのチェック（審査）により受理が決まります。

大会サイト: <http://www.icap2010.com>

会期: 2010年7月11日～16日

開催地: オーストラリア（メルボルン）於:
メルボルン会議センター

発表申込: 2009年1月1日（個人発表は7月
1日）～2009年12月1日

受理通知: 2010年2月1日

参加費用予約割引期限: 2010年3月1日

B. 第27回国際応用心理学会大会での日本応用心理学会によるシンポジウム

日本応用心理学会は、国際的な研究交流を促進するために、国際応用心理学会大会で本学会主催のシンポジウムを継続開催しております。第27回大会

での開催については申請中です。司会および企画は蓮花一己委員が担当。シンポジウム・メインテーマ: Measures to Aging in Japan。

C. 国際応用心理学会大会関連英文特集号の原稿募集と審査

下記のように、第27回国際応用心理学会で発表した本学会会員からの英文特集号への投稿を受け付けます。原稿受付の期限は2010年12月を予定しております。投稿・審査手続きの詳細が決まりましたら学会ホームページや広報誌等を通じて公開いたします。

投稿条件: 第27回国際応用心理学会大会において発表（口頭発表・ポスター発表等）をした個人・グループは、英文特集号に英文原稿により原著、資料、短報を投稿できる（第1筆者は1件のみ）。審査受理後に指定の英文チェック業者の校閲を受ける（費用は個人負担）。

審査機関: 本英文特集号の審査は、国際交流委員会が担当します。委員長: 内藤哲雄（信州大学）/委員: 荒木穂積（立命館大学）、坂元章（お茶の水女子大学）、田中真介（京都大学）、所正文（国士館大学）、蓮花一己（帝塚山大学）

5. 日本応用心理学会第77回大会からのご挨拶（第1報）

次期大会委員長: 田中 真介（京都大学）

えております。

そのために今度の大会では、本学会の特色を活かし、応用心理学のそれぞれの分野でご活躍の会員の皆様のご協力を得て、人々が互いに信頼し尊重し期待しあう力量を高めて、自らの力を社会の中で十分に発揮して自己の価値を証明し、互いに互いを支えあいながら安心して暮らしていくような平和な社会を作っていくには何が必要か、そのことを多面的に深く考究するとともに、その成果を社会的な実践活動として具体的に活かしていくことにつながるような多彩な大会企画を準備したいと考えております。詳細は第1号通信でご案内いたします。ぜひこの機会に、それぞれの分野ごとの専門的なテーマ、また分野を超えた総合的なテーマでのシンポジウム

やワークショップ、小講演などの新たな企画をご提案くださいますようお願い申し上げます。

時計台のあるキャンパスからは、青空に美しく映える大文字山や比叡の山なみを遙かに見渡すことができます。また夕暮れには、長岡京に連なる山々に沈む夕陽に包まれながら、心静かな時間を過ごしていただけたことでしょう。夜には祇園の賑わいも身近です。初秋の京都でご研究の成果をのびのびと交流していただけたよう、これから準備を進めてまいります。皆様のお越しを心よりお待ち申し上げております。

記

1. 日本応用心理学会第77回大会

○開催校：京都大学（大会委員長、田中真介）
 ○開催日程：2010年9月11日（土）・12日（日）
 ○開催場所：京都大学吉田キャンパス（時計台百年記念ホール、吉田南総合館）
 （住所）〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
 （電話）075-753-7531（代表）、075-753-9356（大会事務局）
 （交通）JR京都駅より市バスで約30分。「京大正門前」「百万遍」下車すぐ。

2. 今後の予定（案）

2010年3月中：第1号通信の送付（大会要項、申込み方法のご案内など）。

2010年5月31日（月）：大会参加・研究発表の

申込み及び大会論文集原稿の受付締切。

2010年6月中：第2号通信の送付（大会企画、暫定プログラムのご案内など）。

2010年8月中：プログラム及び発表論文集の送付。

3. 特記事項

- 1) 今大会の参加受付及び研究発表申込み受付は、すべてインターネット及び電子メールで行います。詳細は第1号通信でお知らせします（ネット環境が整っておられない場合には郵送にも対応いたしますので、大会事務局までお問合せ下さい）。
- 2) 来年2010年度には、国際応用心理学会が7月11日（日）～16日（金）にオーストラリア・メルボルンで開催されます。そのため、本大会の受付日程を例年より少し早めに設定させていただいています。ご協力をよろしくお願ひいたします。
- 3) 京都には多彩な宿があります。大会事務局では宿泊の斡旋はいたしませんが、ご希望があれば候補を紹介します。秋の京都は観光シーズンですので、早めの予約をお勧めいたします。
- 4) 大会実行委員会（準備委員会）では、大会の企画内容、受付方法、プログラムや論文集の編集方法そのものについて、会員の皆様からの率直なご意見・ご要望を受け賜り、大会準備に活かしていきたいと考えております。大会事務局まで隨時ご遠慮なくお知らせください。

6. 機関誌編集委員会からのお知らせ

機関誌編集委員長：所 正文（国士館大学）

年9月から本年8月末までの1年間の論文種類別・投稿本数ですが、原著15、資料4、短報11、総説3、特集2、実践報告2、合計37本となっております。

次に、投稿倫理に関わる問題が編集委員会内で大きな議論になっております。応用心理学分野の研究の場合、教育、産業、臨床等の各現場から研究データの提供を受けることが多いため、データ提供者に対する個人情報保護などの倫理問題への配慮が欠かせません。倫理問題への社会的関心が高まっている現在、各投稿者に対して投稿時点にデータ使用許諾証明書の添付を求めてはどうかという意見も出てお

ります。最終的に結論が出ましたら、本誌ならびにホームページで要項をご案内する予定です。

最後にお詫びですが、この1~2年において編集業務に関わる諸事情により、機関誌の発行時期が不定期になってしまい、会員の皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしていることを深くお詫びいたします。とりわけ2006年国際応用心理学会アテネ大会の特集号が、3年後の今年になってようやく発行されるという異常な事態となり、誠に申し訳なく思っ

ております。学会機関誌は定期刊行物であり、会員の皆さま方は、発行時期を睨みながら論文投稿を行い、日々研究を進めておられるわけです。今後はこうしたことが起こらないように編集委員会として専心努力いたす所存です。本学会機関誌は年2号発刊されるため、1号については9月30日発行、2号は翌年3月31日発行を極力厳守して編集作業を進めて参りたいと存じます。何卒ご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

7. 「応用心理士」認定審査委員会 活動報告

「応用心理士」認定審査委員会委員長：玉井 寛（福島学院大学）

今年度4月以降の本委員会活動は、下記の通りです。

第1回常任理事会 4月17日（金）

2008年度後期申請者2名について、すべての手続きが終了の報告あり。

第2回常任理事会 6月19日（金）

「応用心理士」認定審査委員会の委員が了承される。

（委員長）玉井 寛（委員）森脇保彦、桐生正幸、深沢伸幸、浮谷秀一

（任期）2009年4月1日～2012年3月31日

第3回常任理事会 8月2日（日）

2009年度前期申請者3名について認定され

た。

9月12日 九州大学第76回大会会員総会で会員の申請応募を呼びかけた。

会員各位には、10月末頃に申請書類を送付いたします。

会員の皆様全員が、「応用心理士」資格を取得されますよう心から願っております。

今年度下期の資格申請受付は、「10月1日～11月末」です。ぜひお申し込みいただきますようお願いいたします。

（申し込み方法およびその他詳しくは、本学会ホームページで参照ください）

8. 日本心理学諸学会連合報告

谷口 泰富 常任理事

I 2008年度第2回心理学諸学会連合報告（垣本前常任理事よりの引継ぎ事項）
〈報告事項〉

1. 心理学検定

- ・2008年9月、第1回心理学検定が実施された（受験申込者：1,335人、受験者：1,210人、合格者：746人〔一級：383人、二級：363人〕合格率62%、不合格者：464人）。
- ・第2回心理学検定は2009年8月23日（日）に、全国8会場で実施予定である。

〈審議事項〉

2. 懸案事項となっていた心理学資格については、「2資格1法案（臨床心理士・医療心理師）」と

して提出することが承認された。

3. 心理学検定協力委員（問題作成・運営など）について藤田主一氏が選出された。

II 2009年度第1回心理学諸学会連合（2009/6/7
於：東大）報告（担当：谷口）
〈報告事項〉

1. 理事長より2008年度第7回及び第8回常任理事会議事録並びに2009年度第1回常任理事会議事録が報告された。
2. 事務局長より、常任理事、理事、事務局員の交代が報告された。
3. 教育委員会委員長より、教育委員会報告がなさ

- れ了承された。
- 理事長より、「2資格1法案」に関して「国會議員等への働きかける」ということに関しての再確認がなされた。

〈審議事項〉

- 理事長より 2009 年度第 2 回日本心理学諸学会連合定例理事会の議事録が報告され、異議なく了承された。
- 役員選挙が行われ、新しい役員が決定した。
 - ・理事長（市川伸一）・副理事長（織田正美・野島和彦）
 - ・常任理事（田島信元・奥村茉莉子・鶴光代・岩崎庸男・内田伸子）
 - ・幹事（森谷寛之・子安増生）
- 日本マイクロカウンセリング学会の日本心理学

諸学会連合への入会審査が行われ、審議の結果承認された。

- 事務局長より 2008 年度事務局収支決算（案）が提示され了承された。
- 事務局長より 2009 年度事務局予算（案）と按分金の変更（事務局 2 割と検定局 8 割を、それぞれ 5 割と 5 割にする）が提案され審議の結果了承された。
- 心理学検定局より 2008 年度検定局収支決算（案）並びに 2009 年度検定局予算（案）が提示され審議の結果了承された。
- 心理学資格に関してこれまで進めてきた「2 資格 1 法案」は極めて困難であり、今後は「1 資格 1 法案」の方向で実現を目指すという提案がなされ承認可決された。

9. 事務局だより

事務局長：浮谷 秀一（東京富士大学）

1. お悔やみ

2009 年 5 月に名誉会員の黒田正典先生が、2009 年 7 月に名誉会員の金子秀彬先生がお亡くなりになりました。生前の当学会へのご貢献を感謝とともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

2. 終身会員について

本学会には、終身会員という制度があります。終身会員になるためには、年度末までに申し出る必要があります。下記の日本応用心理学会会則の抜粋をご確認いただき、終身会員を希望される会員の方は事務局までお申し出ください。なお、会員在籍年数など不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。

（会員）

第 4 条 本会の会員は、正会員、名誉会員、終身会員、賛助会員、および学生会員とする。

（中略）

4 終身会員は、次のいずれか 1 つに該当し、本人の申し出により常任理事会の承認を得たものとする。

- 満 71 歳以上、かつ正会員在籍年数 30 年以上の正会員
 - 満 71 歳以上、かつ認定「応用心理士」取得後 10 年以上経過した者
- なお、終身会員は会費を納める義務を有しない。

（後略）

また、住所、所属など変更がありましたら、メールや書面にて速やかに事務局までお届けくださいようお願いいたします。

日本応用心理学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株)国際文献印刷社内

Tel: 03-5389-6491 Fax: 03-3368-2822

E-mail: jaap-post@bunkan.co.jp

編集後記

九州大学で開催された第76回大会は大変盛況に運営され、川本先生をはじめとする大会委員会の先生方の多大なご苦労によりまして、充実した立派な大会になりました。大会を運営されました先生方に心より御礼申し上げます。また会員総会の開会のご挨拶のなかで、川本先生が九州大学の構内には「利休の釜掛けの松」がありますというご案内をされていましたので、総会後、さっそく探検に出かけました。大雨のため、ぬれ鼠になってしまい、見つけるのに大変苦労したのですが、医学部基礎研究棟の近くに利休の松を発見しました。豊臣秀吉が九州遠征の際に、利休に命じ、松の枝に鎖をかけ釜をつるして、茶の湯の会を催した場所であるとのことでした。このような歴史的名所が、大学構内にあること

に大きな感銘を受けました。

次年度は、京都大学において第77回大会が平成22年9月11日(土)~12日(日)に開催されます。大会の構想に大きな期待が寄せられとともに歴史的名所の本場であり、見どころがたくさんあります。会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。

なお、ニュースレターは今回のNo.22が最終号となります。ニュースレターの作成にご尽力された先生方・関係者の皆様、長期間にわたりありがとうございました。次年度からはニュースレターに替わり、「応用心理学のクロスロード」というタイトルの広報誌が刊行されます。この広報誌は本会の情報発信やさまざまな人々の出会いの広場となることを狙いとして作られます。ご期待ください。

(藤森 立男)

発行 広報委員会 委員長 藤森立男 日本応用心理学会事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 (株)国際文献印刷社内 電話 03-5389-6491 FAX 03-3368-2822
--